令和３年度７月　定例会　議事録

前橋市国際交流協会
日本語活動グループ
（筆記者：YM）

日　次：　７月２４日（土）　１３：００～１４：４０
場　所：　前橋市中央公民館　５階　第５０３学習室
出席者：　７名

①各クラス状況
・コロナウイルス感染症対策のため５月と６月は中止した。
＜水曜少人数＞（JH）
・7/7～8/4 の全 5 回、ボラ 8 人・学習者 14 人が登録、参加者は少ない、ｵﾝﾗｲﾝ学習せず
＜土曜少人数＞（TS）
・7/24～8/　の全 5 回、ボラ 13 人・学習者 20 人が登録、本日はミャンマーの 5 人は不参加
＜水曜日本語教室Ｉ＞（KN）
・7/7～7/28 の全 4 回、学習者 2 人、非常に少ない
＜土曜日本語教室Ｉ＞（YM）
・7/3～8/7 の全 4 回、学習者 13 人が登録(ｳﾁ 1 人はⅡｸﾗｽへ)、ゼロ初級の登録者がかなり多い

②日本語活動におけるルールなど（事務局 HS）
・別添「日本語活動ボランティアのみなさんに守っていただくこと」及び「日本語教室に参加しているみなさんへ」にて説明あり
・学習者が 2 週間以内に感染地域に行った場合の取り扱いについて、2 回予防接種済みの学習者は適用除外で良い

③日本語文化祭、国際交流パーティー（事務局 HS）
＜日本語文化祭＞
・2/8 の在住外国人支援部会で開催の延期を決定し、今後のコロナ感染状況、クラスの参加状況を見て協議することとした。8/30 の在住外国人支援部会で協議予定。
＜国際交流パーティー＞
・9 月の友好親善部会で開催の有無等について話し合う予定。
＊両部会に日本語活動グループとしての意見（実施方法、場所、内容など）を上げる。
　MIA 事務局が各リーダーに意見の取りまとめを依頼する。
＊早めに外国人参加者に日本語文化祭への参加意向を確認する。

④その他

＜日本語ボランティアスキルアップ研修（5/27 県立女子大）の報告（JH、SY）＞

・オンライン研修で 24 人が参加し、楊廷延(ﾔﾝ・ｼﾞｮﾝﾖﾝ)先生が Google Meet の使い方やオンラインで使える日本語教材について講義した。

・Google Meet は主に学校などの教育現場で使われているビデオ会議アプリで、誰でも無料で利用できる。

・オンラインで使える日本語教材は別添の通り

＜ボランティアオリエンテーション（YM）＞

・昨年の 8 月に 2 回に分けて実施したが、それ以降の新規ボラはいないので、当面はオリエンテーションの必要はない。

＜定例会のあり方（YM）＞

・2/20 のオンライン定例会は参加者が多かったが、今回非常に少ないのはコロナの影響か？

・一昨年から単なる打ち合わせ定例会だけでなく勉強会なども取り入れ始めたが、その後のコロナ禍でたち切れとなってしまっている。

・このような現状を打開するためにどのような定例会にすべきか。

＊意見は以下の通り

・全員持ち回りによるオンライン勉強会を取り入れてはどうか。
新しいボラも参加意欲がわくかもしれない。

・ビデオ会議ツールとして、だれでも無料で時間制限なく使える Google Meet を利用してはどうか。ただし使い方の講習を行う必要がある。

・TY さんの勉強会が中途半端に終わってしまったので、再度開催可能かを確認する。

＜日本語教室の講師による意見交換会（KN）＞

【概要】7/10 に県主催で前橋・伊勢崎・玉村の日本語教室講師を集めた意見交換会が開催された。正式な会合名は県ぐんま暮らし・外国人活躍推進課主催の「地域日本語教室ミーティング」。地域日本語教室の関係者等が集まって意見交換や課題共有を行うため、県内を２地域に分けて開催するというものだった。地域日本語教育コーディネーター(NPO 法人 G コミュニティーの本堂春生さん)が進行を行い、助言や意見集約を担う。

【対象】地域日本語教室の代表者、当該地域の日本語教育機関の関係者、市町村の日本語教育担当者（オブザーバー）

【費用】参加費無料

・MIA からこの会議のお話しをいただいたときは、県からの依頼で出席するという認識だったが、「参加費無料」「申込書に記入して提出」と聞き、少し違和感を覚えた。

・出席者は MIA から KN と AM、伊勢崎日本語グループの代表者、同じく伊勢崎の在住外国人に

よる日本語支援活動を主催している方、伊勢崎子ども未来塾のMTさん、本堂さんの6名。お互いほぼ顔見知りということで活動上の苦労、コロナ禍のオンライン実施の是非など共通の問題も多く、話し合い自体は実りあるものだった。

・伊勢崎の日本語活動の方は「特定非営利活動法人伊勢崎日本語ボランティア協会」の理事長さんで、活動は伊勢崎市と連携し合っているとのことだが市職員さんが現場に参加されることはほぼなく、見学もないとのこと。子ども未来塾もNPO法人の下で自立した活動をしつつ、伊勢崎市教育委員会からの受託事業として活動資金を確保している。ボランティアは有償で交通費などは実費を支給しているとのこと。活動は独立しているが資金面では市からの支援があるというのが持続可能なボランティア活動には必須なのだと感じた。また連携しているとはいえ市の担当者の活動への参加の度合いは非常に低いとのこと。

・私たち出席者の背後に埼玉県の地域日本語コーディネーターさん1名、群馬県地域創生部の方2名、前橋市文化国際課の方1名、玉村町役場から企画課ブランド推進課の方1名、伊勢崎市役所の国際交流課の方1名、NPO団体多文化共生ぐんまの方1名、と確かもうお一人、みどり市？か桐生市？の方が「見学者」として来られていた。(「多文化共生ぐんま」という団体は失礼ながら初めて知りました)。

・役所関係の方には、在住外国人の方も定住者である以上は公共のサービスを受ける権利のある市民であり、公的な援助には言語の支援が含まれるという点をもっと自覚・認識していただきたいと思った。各団体のボランティアの方々と再確認し合ったのは行政には外国人市民の問題が市町村の問題だという認識が足りないのではないかという点だった。会議後、「見学者」の方々から、異様なまでのねぎらいの言葉をいただき、「できることがあったら協力しますので」と言われたが、その表現が物語るように「お手伝い」という感覚しか持っていないようだ。ボランティアの善意に頼っているうちは、外国人支援は私たち無償のボランティアができる、小規模でささやかな活動の域からは出られないのかな、と感じた。役所の担当者は数年で配置換えなどがあるので、市や町で首尾一貫した支援の施策が難しいという現実的な問題もあるのだろう。

＊次回定例会：未定

以　上